ノーム通信136　2007－10

〒130　0026　東京都墨田区両国 4-30-4-1109

今月はあわただしい。街のたくさんの問題を解決するためのフォーラムや善福寺川を子供の遊べる安全な川にするためのフォーラムなどに出ながら，バングラへ行く用意、ベトナムの子供達の衛生教育を考える、ついでに便所作りのお手伝い、そして今度はブラジルで貧民街を何とかしろと言って来た、いまは神楽坂のお祭りで、千葉の造り酒屋さんと飲み手達とのつながりを造るために光照寺で飲んで語り合う会を開いている。これは友人の発案で、たった１５人限定、お寺さんの２０畳の庫裏で、一人９０００円もとっているのに一見ろくなつまみもない、しかし、人数が少ないということは、実に和やかに語り合えるということで、その中に豊かな中身が詰まっている、おもてなしの穏やかな一杯から始めて、古酒で言えば5年物から３５年物まで幾種類かを味わい分けたり、肴のめざしは焼きたて、造り手が進める魚とおからの組み合わせ、単純なおにぎりは農家のご主人が娘さんを連れてきて、手塩をかけた米を使ってつくり、しっかり説明もしていただける。それにつける塩はヒマラヤから3種類、ラオスの井戸から１種類。その間にきっちり温度管理してつけた熱燗があがる。造り手は答える「酒ができれば必ず試します。常温で一杯、冷やして一杯、そして燗の仕方を2種類ほど、どんな酒でも燗にすると香りが立って来て良くなりますね。」そんな話を和やかにしながら時間が過ぎてゆく。外は、シンとした境内に秋の陽がきっちりと差し込んでいて、神楽坂の喧騒がうそのようです。しかしこれで仕事をしていると言っていいのか、悪いのか。

帰って母とそんな話をしていたら「お前は何をしているのかねー、ずっと微妙ばっかりで橋を作っているかと思っていたら、外国へ行くは、神楽坂だと、よくわからないねー。」「そりゃあ、自分でもわからないのだから仕方がない。少しでも金になるんだったら、ブラジルでも何でも行くけど、英語がからっきしだから困るんだよねー。」という笑いながらぼそぼそと話し合う時間があった。

本当に今自分が何をする人なのか自分でもわからない。わからないまま町会長でもあるわけだからいろんな人とも会わなければならない。この間は代議士さんの話しぶりを聞いたすぐ後で、高名な環境デザインの教授の話を聞いたが、びっくりしたのはその語り口というか、人に対する時の心の持ち方が実に酷似しているということで、すべての人や事象を分類化し、それぞれのグループに明確な立場を与えてその上に立って話を進める。つまり実に単純化された話で、一見明瞭で、力強い、説得力のあるものだが、ちょっと乱暴な気もする。考えて見ると、微妙で深遠な危うさの残る心や行動の機微をすっぱり切り捨てて言い切るという面で実に似ている。そう思い切れればもっと簡単なものだろうが、こちらは生身で、「食っていけるかな、今けんかしても後々ずっと付き合うのは続くしな、・・・」など、などと心配しながら慎重に語り合うと、一番安全な範囲で相手の出方を見ながら少しづつ話を進めるようになる。庶民はずっとそうして暮らしてきた。まあ、しらふの時はだが。社会のそれぞれの持ち場で考える仕組みや、話す手法がそれぞれ異なるのは、みんなその道の職人であるのだから仕方がない。どちらがえらいというものでもないと、そう思うのだが、そこでまた元に戻って「私はいったい何をする人か。」となるとどうもわからない。いつもながらの事だが。

そして、そろそろあちこちで、誰か死んだ、彼が亡くなったという話を聞くと、何をやってもやらなくてもけっきょく消えてなくなっちまうのは同じで確かなのだという事実を目の前にぶら下げて、さてどうするの、と言うより、どう考えるかなのだろうが、やっぱり、いい友人がいて、和やかに語り合える場を持てる人は、どんなにえらいと言われたり、大もうけしたりする人よりもいいのかもしれないと思う。まあ、金はいくらあっても邪魔にはならないはずだが、その点に関したら経験がないのでわからない。今月もそんなことをぶつぶつ言いながら過ぎていきます。

http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1
TEL/FAX 03　5600　0195　**高村　哲**　GnomesJpn@aol.com